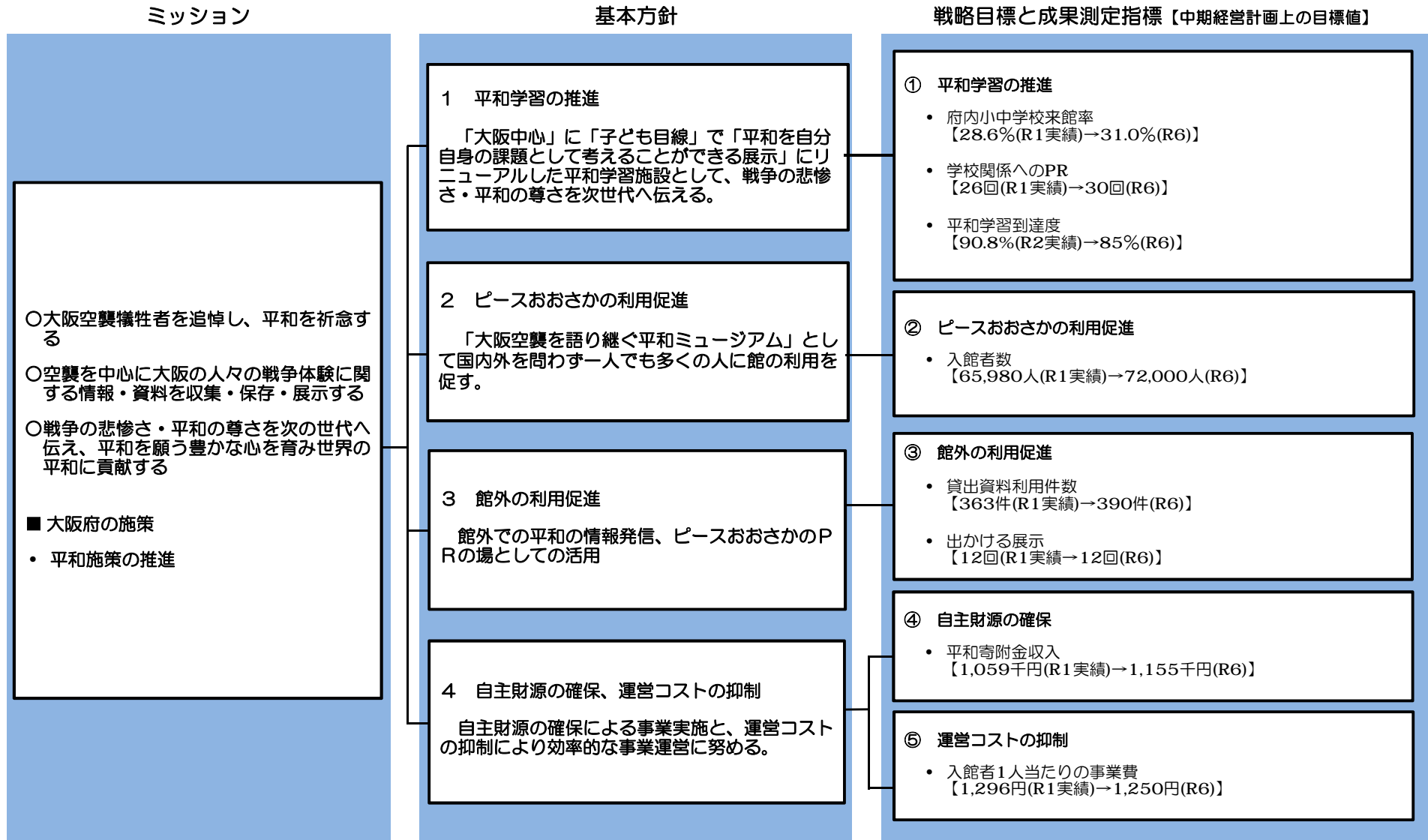


法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
作成（所管課）	府民文化部人権局人権企画課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R2～R6)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R4 目標値	最終年度 目標値	
① 平和学習の推進	府内小中学校来館率 (ピースおおさかに来館した府内公立小中学校数/府内全公立小中学校数)		%	20	11.5	12.0	16.2	16.7	20	30.3	31.0	平和学習施設としての役割を果たすという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。
	学校関係へのPR		回	10	21	23	23	25	10	29	30	上記目標を達成するために効果的であるという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当法人は、①大阪空襲犠牲者を追悼し、平和を祈念する ②空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料の収集、保存、展示する ③戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み、世界の平和に貢献することを目的とし、平成27年4月に「大阪中心」に「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」にリニューアルし、主に平和学習施設として運営している。</p> <p>○先の大戦を自らの体験として語る人は少なくなる一方、平和学習施設として平和の尊さを次世代へ伝えるべく、府内小中学校へ働きかけ、1校でも多くピースおおさかを利用してもらうことを最重点目標とする。</p>											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○当財団の運営費のほとんどは府市の補助金に依拠しているが、平成20年の財政再建プログラム案において「府派遣職員は必要最小限」とされ、それ以降の補助金の減額も相まって、組織体制、事業展開とも極めて厳しい状況にあり、限られた人員・資源を生かした効果的な運営が求められている。</p> <p>○府内の公立小中学校については、エリアごとによってピースおおさかへの来館率にばらつきがあり、来館率の低いエリアへの効果的な働きかけが必要である。</p> <p>○カリキュラムや業務の増加により、教員の平和学習の機会が減少しており、教員に向けた積極的なPRが必要である。</p>											
活動方針	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に留意しつつ、学校等への働きかけを行い、府民等への平和学習機会の充実を図る。</p> <p>※新型コロナウイルスの影響(令和4年3月30日時点) 令和2年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大により当館の運営に多大な影響が生じることとなり、現在も、その状況により入館制限を継続するなど感染防止対策を適切に講じた上での運営が求められる。 令和4年度の目標値については、一定のワクチンによる抑制効果が期待されるものの、引き続き、学校での集団感染や新たな変異株の発生による更なる感染拡大の懸念も予想されるなど不確定要素も多く、依然厳しい状況が継続すると想定されることから、次のとおりとする。 なお、今後の状況を踏まえ、必要な場合は、目標値を見直すこととする。</p> <p>●令和3年度の実績を踏まえ、中期経営計画の目標値に対して、昨年度と同程度の達成率を乗じて得られた値とする。(平和学習到達度及び平和寄附金収入は除く。)</p>											
										<ul style="list-style-type: none"> 市町村教育委員会や校長会等におけるPRの実施 貸出資料や語り部の派遣等の平和学習の利用促進 講堂や会議室の利用の促進、教員等による平和や人権研修の誘致 定時映画の上映、見学ワークシートの提供、戦跡めぐりなど、教員の平和学習のサポートに取り組む 新規の定時映画の作成 大空襲体験者証言のアーカイブ化(R4年度中に作成、R5年度以降活用予定) 学校の来館時期の分散化への取り組み 学校教員向けのアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握 		

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R2～R6)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
① 平和学習の推進	平和学習到達度 「ピースおおさかが平和学習の場として設立したか」という問いに 対し、「設立した」/「全回答 (選択肢は、「設立した」/「設立したがもう少し工夫・改善があれば なお良い」/「あまり設立しなかった」/「設立しなかった」)		%	10	90.8	85.0	93.4	↓85.0	10	85.0	85.0	平和学習施設としての役割を果たす という考え方で設定した中期経営計画 の目標値とする。	・教員向けアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握
② ピースおおさかの利用促進	入館者数		人	15	28,088	28,600	35,163	35,800	15	71,600	72,000	少子化等を踏まえ設定した中期経営 計画の目標値を基礎に、今後の新型 コロナウイルス感染症の影響を考慮し て設定。	・企画事業の充実 ・日本平和博物館会議やユニセフ・ユネスコ等外部団体との連携 ・会議室活用の誘致 ・新作アニメ映画の作成 ・学校の来館時期の分散化への取り組み
③ 館外の利用促進	貸出資料利用件数		件	10	237	248	253	269	10	384	390	館外の利用促進を図るという考え方で 設定した中期経営計画の目標値を基 礎に、今後の新型コロナウイルス感染 症の影響を考慮して設定。	・来館が困難な学校に向けたPRの実施 ・貸出資料を増やして対応
	出かける展示		回	10	7	8	8	9	10	12	12	館外の利用促進を図るという考え方で 設定した中期経営計画の目標値を基 礎に、今後の新型コロナウイルス感染 症の影響を考慮して設定。	・展示先の確保 ・展示内容の充実

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄附金収入		千円	15	619	636	1,250	↓693	15	1,155	1,155	貴重な自主財源としての寄附金につ いて、広く募集を呼びかけるという考 え方で設定した中期経営計画の目標 値を基礎に、令和3年度の収入内訳 を考慮した上で今後の新型コロナウイ ルス感染症の影響を考慮して設定。	・企画事業等での広い寄附の呼びかけ ・税の優遇措置のPRの継続
⑤ 運営コストの抑制	入館者1人当たりの事業費 (「一般会計」支出合計(事業活動支出額)/入館者数)		円	10	3,198	3,161	2,551	2,514	10	1,260	1,250	効率的な運営を図るという考え方で設 定した中期経営計画の目標値を基礎 に、今後の新型コロナウイルス感染 症の影響を考慮して設定。	・目標入館者数の達成 ・運営コスト抑制の取組みの継続

- 【凡例】
- ・☆はR4年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

CS調査の実施概要

○令和3年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	513人	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
アンケートに記載の主な意見（要望・改善点など） ①館内の構造・見学順路が分かりにくい。 ②展示の説明の文字が小さくて見づらいところがある。 ③展示の説明をしてもらいたい。 ④上映しているアニメ作品が古めかしい。 ⑤館内設備を充実させてほしい。 ⑥展示内容について、もっと被害と加害の両面から伝えるべきである。	（結果を踏まえ実施した取組） ①小中学生の引率教員に対して、下見の際や見学当日に見学順路の説明を丁寧に説明するとともに、適宜必要な館内の案内表示を設置している。 ③昨年度導入したスマートフォンを活用した展示ガイダンスアプリの利用案内を充実させた。 ④新作アニメの制作に着手した。 ⑤-1 館内のWi-Fiの電波環境を改善した。 ⑤-2 寄贈された千羽鶴掲示台を増設した。 ⑤-3 館内照明設備のLED化を完了させた。

○令和4年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	600人	通年

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
平和学習到達度	%	93.4	85

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>平和学習到達度は、来館のあった小中学校の代表教員に対するアンケートにより算出しており、リアルな実物展示や映像、定時映画の上映、ワークシートの提供等で概ね高評価を受けている。しかしながら、アンケートによるニーズに出来る限りの対応はしつつも、来館時期が集中することによる混雑が不可避であることや展示内容についての様々な考え方、施設面の制約等での限界もあり、年度毎により実績値は変動するものである。</p> <p>本指標は、令和2年度から策定した中期経営計画において新たに設定した目標項目(毎年85%以上を維持)であり、引き続き、計画に沿った目標値を継続してクリアすることを目標とする。</p>
--	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
平和寄附金収入	千円	1,250	693

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和3年度の寄附金収入については、令和3年9月でピースおおさかが開館30周年を迎え、その記念事業として、10年ぶりに「刻の庭」の銘板に大阪空襲死没者の方のお名前を刻む事業を実施。当日は遺族の方も招き事業を実施し、広く新聞やテレビでも取り上げられたことにより、遺族の方等から、今後の銘板の改修工事や名簿管理の維持などに関する寄附金として約587千円が集まったところである。</p> <p>しかしながら、この寄附金は「刻の庭」の10年ぶりの銘板追加事業に係る一過性のものであり、令和4年度以降に同様の寄附を見込むことができない。また、令和2年から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により現在の社会・経済活動が制限されている中では、通常の寄附の大幅な伸びも令和4年度以降見込むことは非常に厳しいことから、令和4年度の寄附金収入については、令和3年度の寄附金収入から587千円を除いた額を基に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して令和4年度の目標額を設定する。</p>
--	---